

市川自然博物館

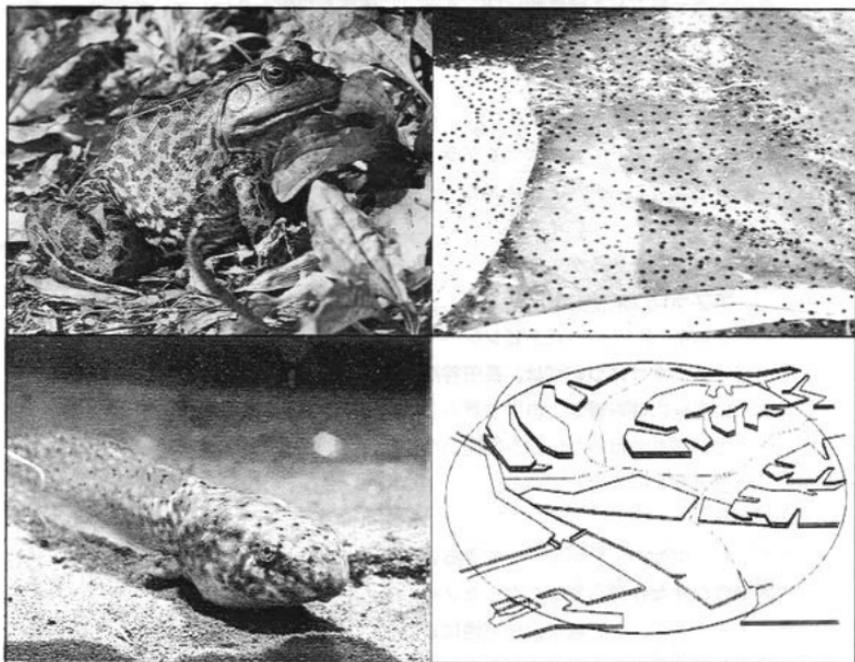
12-1月号

(通巻89号)

だより



自然博物館のめ



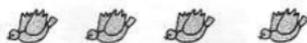
ウシガエル

左上：警戒心が強く、あまり水から離れない。
左下：おたまじゃくしで冬を越す。

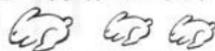
右上：卵は小さく、水に浮かぶ。
右下：市内全域で見られる。

今年度の特集は、長田谷津総合調査の内容を紹介してゆきます。
第Ⅴ回は『長田谷津の動物(脊椎動物)』についてです。

長田谷津 総合調査報告



V 長田谷津の動物(脊椎動物)



長田谷津で暮らす生物について考える場合に、大事なポイントがあります。それは、長田谷津を取り囲む周辺地域において都市化が激しく進行し、その中で、孤立した「孤島」のような状態で長田谷津に水と緑が残されている、ということです。今回は、そういった観点から、脊椎動物についてまとめてみました。

●交錯する2タイプの哺乳類

長田谷津で見られる哺乳類には、2つのタイプがあります。

○都市には適応できないタイプ

| | |
|-------|--------|
| ジネズミ | アズマモグラ |
| カヤネズミ | アカネズミ |
| ノウサギ | イタチ |

○都市に適応できるタイプ

| | |
|---------|-------|
| アブラコウモリ | ドブネズミ |
| タヌキ | ハクビシン |

※イヌ、ネコについては、長田谷津に完全に住み着き、自力で暮らしているものはいないが、散発的な出入りを繰り返している。

このうち、中型の哺乳類について見ると、市内ではなかなか見られなくなったノウサギ、イタチと、ここ数年、住宅地にまで進出しているタヌキ、ハクビシンとがともに記録されています。激しい都市化によってすみかを追われたノウサギやイタチが長田谷津に辛うじて残り、一方、タヌキやハクビシンは長田谷津のような

場所を足掛かりにして、住宅地へと進出していったわけです。

長田谷津は、都市と里山の接点のような場所になっています。

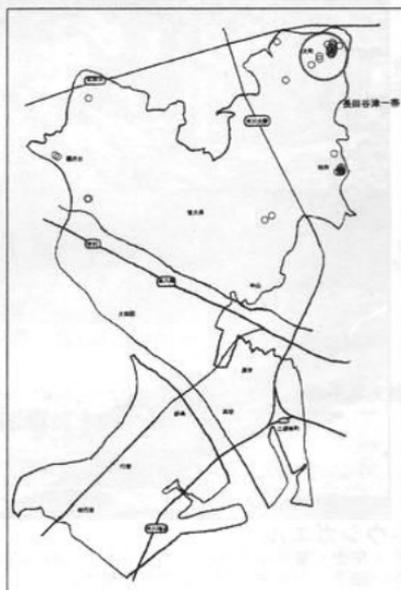


図1 ノウサギの分布(1986~2002年)
近年は、長田谷津一帯と柏井町に記録が集中している。

●ひと冬を過ごす野鳥たち

鳥類では、長田谷津を冬越しの場とするタイプが種類、数とも圧倒的に多く、アオジやツグミ類などが多く見られます一方、住み着いている中には、繁殖の場とする種類もあります。メジロ、シジュウカラ、エナガ、ホオジロや、巣箱でサポートしたフクロウも繁殖が確認されています。しかし、オオヨシキリのような

渡り鳥（夏鳥）については繁殖は記録されていません。

渡りの経路として利用する種類にはキビタキやムシクイ類、サンコウチョウなどがあります。サシバも8月下旬頃には十数羽の規模で姿を現し、谷津の上空を空高く帆翔します。

| シジュウカラ(住み着き型)の観察記録 | | | | | | | | | | | | |
|--------------------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|-------|
| 2000年 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12(月) |
| 第1週 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | ○ | ◎ | ◎ | ◎ | ○ |
| 第2週 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | ◎ | △ | ○ | ○ | ○ | ○ | ◎ |
| 第3週 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | ○ | ○ | ○ | ◎ | ◎ | ◎ |
| 第4週 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | ○ | ○ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| 第5週 | ◎ | | | ◎ | | | ○ | | | ◎ | | ○ |

| サシバ(渡りの経路型)の観察記録 | | | | | | | | | | | | |
|------------------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|-------|
| 2000年 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12(月) |
| 第1週 | . | . | . | . | . | △ | . | ○ | △ | . | . | . |
| 第2週 | . | . | . | . | . | . | . | △ | . | . | . | . |
| 第3週 | . | . | . | . | . | . | . | △ | . | . | . | . |
| 第4週 | . | . | . | . | △ | . | . | △ | . | . | . | . |
| 第5週 | . | | | . | | | . | | | . | | . |

| アオジ(越冬型)の観察記録 | | | | | | | | | | | | |
|---------------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|----|----|-------|
| 2000年 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12(月) |
| 第1週 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | △ | . | . | . | . | . | ◎ | ◎ |
| 第2週 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | . | . | . | . | . | . | ◎ | ◎ |
| 第3週 | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | . | . | . | . | . | . | ◎ | ◎ |
| 第4週 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | . | . | . | . | . | . | ◎ | ◎ |
| 第5週 | ◎ | | | ○ | | | . | | | ◎ | | ◎ |

◎:多く見られた ○:普通に見られた △:少し見られた .:観察されなかった 欠:欠測
外:観察区域の外で見られた

図2 長田谷津で見られる鳥類のタイプ別の出現状況
1年を過ごす「住み着き型」、渡りで通過する「渡りの経路型」、冬越しの場とする「越冬型」の3タイプについて示した。

●両生類・爬虫類の重要な生息地

両生類や爬虫類は、水辺や湿地を中心に時には林でも暮らす生物です。都市化には弱く、町中で見られるのはウシガエルやミドリガメ（ミシシippiaアカミミガメ）などの帰化種ばかりです。しかし長田谷津には、市内で見られる両生類・爬虫類の大半が生息しています。水辺と林が連続している谷津の環境が、絶好の生活場所となっているのです。

都市化が進んだことで、長田谷津は下流の水系や周辺の緑地から切り離された状態にあります。しかし、この「孤島」のような場所でも、多くの両生類・爬虫類が世代を重ねて生息しています。谷津という環境をひとまとまりで残したことが、とても重要な意味を持っていました。

●閉じ込められた魚類

両生類・爬虫類とは逆に、魚類は「孤島」のような状態であるために、ごく限られた種類しか生息していません。本来は江戸川や東京湾との水のつながりを生かして、さまざまな魚類が住み着いているはずですが、このことは、ここ数年、東京湾のボラが真間川～大柏川と逆上していることから想像できます。長田谷津～大柏川～真間川～江戸川～東京湾という水のつながりが回復すれば、現在よりも魚の種類、数ともに多くなると考えられます。幸い、江戸川・東京湾は環境が改善し、多くの魚が住んでいます。大柏川や真間川の水質も向上してきました。さらに水質が向上し、また、魚が逆上りやすい川の構造になれば、ウナギやナマズなども逆上ってくると思われま

【長田谷津の両生類・爬虫類】

○爬虫類

ミシシippiaアカミミガメ
クサガメ
ニホンカナヘビ
ニホントカゲ
アオダイショウ
シマヘビ ジムグリ
シロマダラ ヒバカリ
ヤマカガシ

○両生類

アズマヒキガエル
ニホンアマガエル
ニホンアカガエル
ウシガエル
シュレーゲルアオガエル



図3 長田谷津と江戸川・東京湾



街かど自然探訪

おじゃまします！

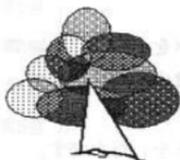
おひわた

大和田・梨畑 タヌキのため糞

4年前のことです。兜橋周辺でタヌキの目撃情報があり、聞き込み調査をしていると、収穫の終わった梨畑にため糞があるとのことだったので、農家を訪ねてため糞を見せてもらいました。

直径1mぐらいのため糞場で、その日の朝もタヌキが来ていたようで、新鮮な糞も残っていました。2匹のタヌキが使用しているらしいとのことでした。

先日、同じ場所を訪ねて近所の方にお話をうかがったところ、5匹ぐらい見かけるようになったとのことでした。



くすのきのあるバス通りから No.35

アシダカグモ

南向きのガラス窓と網戸の間に3センチぐらいのクモがいたので、息子と挟み撃ちにし、虫かごに入れました。蚊を餌にして小さなクモを飼っていた彼は「ヨコバイを餌に飼おう」と、「この大きさではそれでは足りないかもしれないから逃がす」と私。逃がす前に触ってみました。大変柔らかな触り心地でした。

博物館の方によると、「アシダカグモの仲間ゴキブリを食べます。」とのことでした。(水垣麻理子さん)



博物館で
こんないきもの飼ってます！



ウシガエル

「うわっ、大きい！」という声が聞こえれば、ウシガエルの水槽前です。餌のアメリカザリガニの方が目立つので、ザリガニ水槽と思って覗くと、カエルがいます。いつも板の下で動かずじっとしているので、カエルの存在に最初は気づかず、驚くようです。ちなみに体長（鼻の先からお尻まで）を測ってみたら、約17cmの雌でした。図鑑によると平均が16cmぐらい、最大18cm以上ですから、このカエルはウシガエルとしては、そこそこに大きいサイズといえるようです。



○ ○ こんなふうに飼っています ○ ○

※ ※ ※ **レイアウト** ※ ※ ※

- ・ **水** … 鼻を水面に出して呼吸するので、水深は体が水をかぶるぐらいが良いのですが、ほかに魚も入れているため今は少し深くなっています。そのためいつもレンガに掴まっています。
水替えは、週に数度半分ぐらいずつ、汲み置きをした水です。
- ・ **陸地** … ほとんど水中にいますが、時々陸にも上がるので、レンガの上に体より一回り大きいぐらいの板で陸を作っています。
- ・ **その他** … エアーと濾過器を入れてあります。濾過器で取り除けない、大きな食べ残しの殻などは、水替えの時に水と一緒に吸い取ります。

※ ※ ※ **餌** ※ ※ ※

- ・ カエルは生餌しか食べないので、餌の調達が大変です。
- ・ 夏は、アメリカザリガニを捕ってきて入れておきます。かなり大きなサイズでも食べてしまいます。
- ・ ザリガニが捕れない時は、動物園の鳥の餌用のドジョウをやりますが、こちらは小さめ（鉛筆ぐらいの太さ）の方がよく食べます。

わたしの
観察ノート
 No. 71

◆大町公園より

- ・アカバナが咲いていました(9/7)。湿地では、ハッカやニオイタデなどいろいろな野草が咲き出しました。
- ・コブシの実が色づきました(10/5)。今年は実の付きがよく、果実が割れて鮮やかな橙色の実が目につきました。

金子謙一(自然博物館)

- ・ホシホウジャクを見ました(9/13)。昼間活動する蛾の仲間で、ツリフネソウの蜜を吸いに来ていました。

清野元之(自然博物館)

- ・アブラゼミがまだ鳴いていました(10/19)。冷夏の年は、秋遅くまで鳴くようです。

宮橋美弥子(自然博物館)

- ・オシドリのおスを見ました(10/30)。カルガモの群れに混じって悠々と泳いでいました。

土居幸雄さん(大町在住)

◆柏井周辺より

- ・タヌキを見ました(9/29)。夕方に1丁目の住宅から出て、山に入っていました。

◆大柏川周辺より

- ・武蔵野線高架下あたりでボラらしき魚の群れを見ました(10/27)。

以上 吉田 毅さん(柏井町在住)

◆北方町4丁目周辺より

- ・アオサギを見ました(9/14)。大きな木の上に10羽ほどでコロニーを作っていました。

- ・タヌキの足跡を見ました(9/14)。

山下幸治さん(南大野在住)

◆北国分周辺より

- ・セミの鳴き止んだ日を記録しました。ミンミンゼミ(9/17)。アブラゼミ(10/2)。ツクツクボウシ(10/3)。

中村一郎さん(北国分在住)

◆堀之内貝塚周辺より

- ・サンコウチョウを見ました(9/15)。シジュウカラとコゲラの群れに混じていました。

- ・トラツグミを初認しました(10/5)。

◆じゅん菜池公園より

- ・ハシビロガモ、オナガガモを初認しました(9/28)。

以上 根本貴久さん(菅野在住)

◆江戸川河川敷周辺より

- ・ミズアオイの花が咲いていました(9/30)。大洲のピオトープの水面に青紫色の花がたくさん咲いていました。

藤田柳子さん(東大和田在住)

9月中旬までは、真夏を思わせる暑さが続きましたが、その後急に冷え込み、一気に秋らしくなりました。



行事案内



企画展「長田谷津(大町自然観察園)」

平成16年1月2日(金)より開催

特集でご紹介している内容をまとめて、展示で紹介します。

観察会 お申し込みが必要な行事です。

〇いきもの観察会… 親子向け。小さなお子様連れ、大人だけでもどうぞ。 定員：先着10組
〇じっくり観察会… 大人向け。親子でもご参加ください。 定員：先着20名

| テーマ | 日時 | 場所 | 受付開始日 |
|-------------------|------------|-------|---------|
| いきもの観察会 いきももの冬越し | 1月11日(日)午前 | 柏井雑木林 | 12月13日～ |
| じっくり観察会 冬芽をじっくり見る | 2月15日(日)午前 | 長田谷津 | 1月24日～ |

申し込み方法

往復はがきに、参加者全員の住所、氏名、年齢、電話番号、参加したい行事名を明記の上、自然博物館までお申し込みください。

季節を感じる 散策会 お申し込みの必要はありません(雨天中止)。

*集合場所など、詳しくは博物館に直接おたずねください。

| テーマ | 日時 | 場所 |
|--------|-----------------------|--------|
| 冬枯れの林 | 1月18日(日) 午前10時～11時30分 | 柏井雑木林 |
| カモやカワウ | 2月22日(日) 午前10時～11時30分 | 江戸川放水路 |

自然講座 お申し込みの必要はありません。直接会場にお越しください。

*会場 八幡市民談話室(国道14号線本八幡駅前交差点)

*時間 午後6時～8時

| 日にち | テーマ | 講師 |
|----------|----------------|-------|
| 1月24日(土) | 市川山野草 アケビ科～ | 金子謙一 |
| 31日(土) | 市川地層紹介 有機質土壌 | 宮橋美弥子 |
| 2月7日(土) | 千葉県産の蛾類④ヤガ科(2) | 清野元之 |
| 14日(土) | 長田谷津のヘイケボタル | 小川晃 |



湿地の環境整備をお手伝いして下さいますか。(雨天中止)

- ・日時 1月25日@、2月29日@、(12月はお休み) 午前10時～12時
- ・集合場所 観賞植物園入り口
- ・はじめて参加される方は…湿地の中に入る作業もありますので、作業内容や身支度などについて、ご面倒でも、まずは博物館にお電話でお問い合わせください。

野草名札付けのお手伝いをして下さいますか。(雨天中止)

- ・日時 1月4日@、2月8日@ 午前10時～12時
- ・集合場所 観賞植物園入り口



年末年始のご案内
年内は12月27日(土)まで
年始は1月2日(金)より
開館します。

市立市川自然博物館だより
第15巻 第5号 (通巻第89号)
発行日/平成15年12月1日
編集・発行/市立市川自然博物館
〒272-0801 千葉県市川市大町284番地
☎047(339)0477
<http://www.city.ichikawa.chiba.jp/nature/>